

「第2次香取市教育ビジョン（案）」に対する パブリックコメントの実施結果について

「第2次香取市教育ビジョン（案）」について実施したパブリックコメントの結果について、次のとおり報告いたします。

貴重なご意見をお寄せいただき有難うございました。

1. 意見募集の結果概要

施 策 名	第2次香取市教育ビジョン（案）
意見の募集期間	令和元年12月10日～令和2年1月15日
意見の件数	提出者数： 2名 意見件数： 9件
意見への対応等	意見を参考に案を修正したもの： 1件

2. 意見の内容及び意見に対する市の考え方

No.	意見の内容（要旨）	意見に対する考え方	修正有無
1	<p>（大規模災害からの教訓） 教育ビジョンの施策の中に、災害に対し教育（教育資源も含めて）がどのように対応していくか、具体的に記してください。 避難所とされる学校施設においての要配慮者の避難スペースの確保について、防災担当と協議してください。</p>	<p>防災、減災において、自助・共助の活動を促す防災教育は重要であると考えます。P39 事業名「安全な学校づくりの推進」と P42 事業名「安全な学校づくりの推進（再掲）」に、「また、防災についての正しい知識を身に付けさせるとともに、自助・共助の精神を育むため防災教育の充実を図ります。」を付け加えます。 避難所として活用される学校施設の機能向上については、防災担当と協議し整備を行ってまいります。また、学校の「避難所開設初期対応マニュアル」の改訂を進めているところです。</p>	有

2	<p>(一人ひとりのニーズに応じた教育機会の提供)</p> <p>特別支援教育の充実「特別支援教育体制推進事業の実施」「特別支援教育の校内体制の充実」の中で、個別のケースに対応しての専門家による具体的な指導助言や相談の実施とそれに基づく校内での実際の対応が、保護者や福祉関係者と意思疎通をもって迅速に実施できるような体制を整備してください。</p>	<p>P32「特別支援教育体制推進事業」において、「特別支援連携協議会」、特別支援教育の「専門家チーム会議」、そして、個々の児童生徒、教員、保護者に寄り添った具体的な支援としての、「特別支援教育巡回相談」を実施しております。</p> <p>今後も、各組織が有効に機能するように、運営面での改善を行ってまいります。</p>	無
3	<p>(子育て世代包括支援センターとの連携)</p> <p>就学前からのつながりや家庭からの相談体制の充実のために「子育て世代包括支援センター」との連携について具体的に記してください。</p> <p>P27「幼児教育の推進と就学前・義務教育間の円滑な接続」</p> <p>P30「不登校問題への取り組み」</p> <p>P38「教育相談・指導体制の充実」</p>	<p>P27 事業名「子育て支援ネットワーク」については、「香取市地域自立支援協議会」や「特別支援連携協議会」等でネットワークづくりの構築を行っています。</p> <p>P30 事業名「不登校問題への取り組み」では「家庭、学校、関係機関が連携し、継続的な支援と、早期解決を目指します。」と記載しており、この「関係機関」の中に子育て世代包括支援センターも含まれます。</p> <p>P38 事業名「教育相談・指導体制の充実」については、「子育て世代包括支援センターと連携し家庭からの相談に応じています。」と記載しております。</p>	無
4	<p>(障害のある人に対する配慮等)</p> <p>「ひらかれた生涯学習活動の振興」の中で、障害のある人に対する機会の提供や支援・配慮について記してください。</p>	<p>P47「生涯学習活動の推進」で、「障害の有無等にかかわらず、全ての人の学ぶ意欲を支える機会の充実を図ります。」と記載しており、各事業においても、同様に支援・配慮の充実に取り組んでまいります。</p>	無
5	<p>(グローバル化・持続可能な社会)</p> <p>今後、グローバル化が進んでいくし、持続可能な社会を作らなければならない。しかし、グローバル化が持続可能な社会をもたらさず、幸福をもたらすかはわからない。まずは大人が検証し自ら考えることが必要ではないか。</p>	<p>グローバル化の進展は、情報技術の進化と相まって、今後も進んでいくと考えられます。また、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいかななくてはなりません。</p> <p>そのような社会においても、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造し、たくましく心豊かに生き抜く力を育成することが必要と考えております。</p>	無

6	<p>(持続可能な社会と環境問題について)</p> <p>教育ビジョンに環境問題を入れるべきである。例えば給食の牛乳について、使い捨てのパックとストローから、リユースできるコップにする等、環境への意識を高めしていく必要がある。</p>	<p>現在、給食時の牛乳パックにつきましては、リサイクルするために市内の小中学校の子どもたちが毎日、洗い、市で回収しております。これからも子どもたちへの様々な教育の機会を捉え、環境問題に視点を当て、「学校における環境教育の充実」(P56)を推進してまいります。</p>	無
7	<p>(野外活動の推進)</p> <p>自ら考え行動し、生きる力を育むために、子どもが自由にとことん遊べる環境や活動を広げていくべき。</p>	<p>子どものうちにしかできない様々な体験活動が、心身共に健康で感性豊かな人材の育成につながると考えます。子どもたちの安全面には十分に配慮した上で、様々な体験活動の機会を大切にするとともに、市内の施設、里山等の地域資源を有効に活用し生きる力を育ててまいります。</p>	無
8	<p>(情報の氾濫と依存)</p> <p>スマホの普及やインターネット環境に触れる子どもの低年齢化により様々な懸念があり、動画配信サービスについても依存による弊害が危惧される。弊害が心配される乳幼児の母親や、危機感が薄い祖父母世代にも伝えてほしい。</p>	<p>急速な情報技術革新は、私たちのライフスタイルに大きな影響を及ぼしています。そのような社会の変化に対応できるよう、各学校では、スマホやインターネット等による様々な弊害について子どもたちに示し、適切な使い方や家庭でのルールづくり等、学習の機会を設けています。各家庭にもリーフレットを配付したり、保護者会等で子どもたちと大人が一緒に考える機会をつくったりしています。これからも、学校教育をとおして、子どもたちの情報化社会を生き抜く力の育成を目指していきます。</p>	無
9	<p>(多様さを認められる子ども)</p> <p>子どもの教育の問題は大人の問題でもある。子どもが多様さを認められるようにするためには、大人も子どもの多様さを認めなければいけないのではないかと。</p>	<p>各学校では一人ひとりの個性や能力を生かした学習活動を行っております。それぞれの子どもたちが自分の考えを主体的に持ち、その上で友達との対話をとおして、さらに深い学びが得られる授業を目指しております。良いか悪いかではなく考え方の違いや個性を大切に教育を今後も家庭や地域と連携しながら推進してまいります。</p>	無

3. 問合わせ先

教育総務課

TEL 0478-50-1220 / FAX 0478-54-5550